

I 事業計画

1 検診（健診）事業

巡回検診及び施設健診等を実施します。

また、検診の結果、精密検査が必要な方を対象に、胃・大腸内視鏡検査等を実施します。

(1) 巡回検診

(単位：件)

検診・検査種目	令和5年度	令和4年度	
	実施計画数	計画数	実績※
①胃がん検診	81,200	83,800	80,263
②子宮頸がん検診	検診車	21,250	18,947
	日母方式	12,492	11,058
③胸部検診	撮影	19,550	19,760
	肺がん読影	11,540	11,715
	喀痰	1,401	1,304
	結核読影	17,120	17,207
④乳がん検診	エックス線検査	28,950	28,244
	超音波	2,850	2,656
⑤大腸がん検診	90,000	89,350	88,613
⑥肝臓・胆のう・膵臓・腎臓超音波検診	14,530	14,530	13,266
⑦その他検診	1,325	2,640	601
計	302,208	309,822	293,634

(2) 施設健診

(単位：件)

検(健)診・検査種目	令和5年度	令和4年度	
	実施計画数	計画数	実績※
①生活習慣病予防健診(協会けんぽ)	19,575	20,560	17,652
②生活習慣病予防健診(協会けんぽ外)	7,440	7,480	6,462
③特定健診	3,990	3,150	3,896
④定期健診	6,320	6,500	5,408
⑤住民がん検診	7,330	9,000	7,793
⑥オプション検査	26,940	22,110	26,790
⑦診療所(胃・大腸内視鏡検査、ピロリ菌除菌)	190	310	271
⑧その他	1,645	950	1,836
計	73,430	70,060	70,108

※令和5年1月31日現在

(3) 事業推進活動

【巡回検診】

- ① 受診率向上のために、以下の取組みを行います。
 - ・検診の受診勧奨(コール・リコール)を行います。また、市町村独自の受診勧奨に資料等を提供します。
 - ・コロナによる受診控えを解消するため、昨年に引き続き、コロナ禍でもがん検診は大切であることを伝えるリーフレットを作成し、住民に送付します。
- ② 当協会の精度管理の高さを伝えるために、以下の取組みを行います。
 - ・市町村に配布する印刷物等に各種がん検診データ(年度推移等)を掲載します。
 - ・精密検査や定期的な検診の受診に繋げるため、がん検診成績及び全国認定医療機関のデータ等をQRコード化し、結果通知書・リーフレットに記載します。
- ③ 年度末にかけて、地元スーパーと連携して大腸がん検診の検査キットを販売することで、市町村検診の受け漏れを補い、大腸がんの早期発見に努めます。
- ④ 胃がん検診の対象年齢に至らない若年者を対象に、ピロリ菌検診を実施します。
- ⑤ 肺がんエックス線検診にAI診断補助を導入し、精度の高い検診を実施します。また、ハイリスク等の基準を超えた方に、県立病院等と連携し、CT検診を実施します。
- ⑥ 市町村及び医師会と連携し、胃がん一次予防を目的とした中学生へのピロリ菌検診の実施に向けて検討します。

【施設健診】

- ① 「協会けんぽ」加入者を対象とする「生活習慣病予防健診」の未受診事業所に対して受診を働きかけます。
- ② 希望する実施主体に、巡回での生活習慣病予防健診、特定健診を実施します。
- ③ 受診者の健診結果説明時に、結果により医療機関への紹介状・情報提供書を作成・発行に対応できるシステムを構築し、円滑な連携を図るとともに、次回への受診行動に繋げていきます。また、それに必要な医師の確保に努めます。
- ④ オプション検査やPSA検査等(予防接種を含む)の充実を図ります。
- ⑤ AI画像診断補助を用いた精度の高い健診を実施します。

(4) 検診(健診) 情報処理・管理

「各種がん検診」及び「生活習慣病予防健診」等のデータ処理を行います。

また、受検票の打出し、国のPHR事業や、実施主体の要望に応じたデータバンクの還元、協会けんぽ等への請求・報告データの受け渡しなど、多様化するデータ管理を適正に処理するため、システムのアップデートやセキュリティを強化します。

2 普及啓発事業

(1) 広報活動

項目	内容
① メディア広報	がんや生活習慣病の予防と、検診（健診）の必要性を広く知ってもらうため、年間を通じて、啓発活動を行う。
② インターネットの活用	ホームページ等、ネット上の情報を充実させる。
③ 「nobi-yaca」	当協会の事業を紹介する広報誌を年2回（9・3月：各2,500部）発行し、市町村、事業所、会員等に配布する。
④ 協賛等	がん予防や生活習慣病の広報やイベントに協賛する。
⑤ がん征圧月間	9月の「がん征圧月間」に、がんに関する記事等を新聞掲載する。各報道機関に「がん征圧月間」を取り上げるよう依頼する。

(2) 印刷物の配布、教材の貸し出し

受診率向上のために、実施主体へ啓発用オリジナルリーフレットを無料配布するほか、賛助会員へ模型やDVDを貸し出し、広くがんや生活習慣病に関する知識の普及を図ります。

(3) 講師派遣

講演会等イベントでの医師等による講演や模型展示、リーフレット配布等を行い、知識の普及啓発のほか検診の受診へ繋がります。また、小・中・高校生を対象に健康教育を行う「出前授業」を実施し、若年層への生活習慣病や検診（健診）について知識の普及を行います。希望に合わせて職員を派遣、またはオンラインで実施いたします。

(4) 「検診担当管理職会議」の開催

主に市町村の管理職者を対象に、事業方針の説明や検診の最新情報について研修を行います。

(5) 「がん検診担当者会議」の開催

実施主体のがん検診担当者を対象に、次年度検診事業に関する連絡及びがんに関する情報を提供するとともに、専門講師による研修を行います。

(6) 「保健師・看護師がん検診情報研修会」の開催

実施主体の保健師・看護師を対象に、がん検診の情報を伝えるとともに、事業に関する情報交換を図ります。

(7) 会員

がん予防知識の普及啓発活動等、協会の趣旨に賛同される会員を募集します。

	4年度会員数	3年度会員数	2年度会員数
法人	202件	203件	210件
個人	581件	593件	626件

※令和5年1月31日現在

(8) 寄付

香典返しに代えての寄付、快気祝い・還暦祝いなどの個人のお祝いや、企業の社会貢献のための寄付等を受付けます。

	4年度	3年度	2年度
件数	1件	1件	2件
金額	200,000円	200,000円	450,000円

※令和5年1月31日現在

3 保健支援事業

(1) 特定保健指導

特定保健指導の実施率向上を目指す、国の「第3期特定健康診査等実施計画」に基づき、「動機付け支援」や「積極的支援」を実施します。

(2) 各種がん検診の予後調査

がん検診の有効性を評価するため、岩手県医師会成人病登録室に、検診で発見されたがん罹患者の予後情報を申請し、5年生存率及び10年生存率を把握します。

(3) 乳がん自己触診法の講習

検診会場や各種イベントに職員を派遣し、乳がん自己触診を含めたブレスト・アウェアネスの普及を図ります。

(4) がん予防電話相談事業

子宮頸がんワクチンに関することも含め、がん予防の知識普及のため「がん予防電話相談」を実施します。併せて、日本対がん協会の「がん相談ホットライン」も紹介します。

(5) 精密検査受診勧奨

「精密検査実施未報告者」について受診状況調査を行い、受診率向上に努めます。

(6) 人間ドック受診者への健康支援

結果説明を踏まえ、健康維持や改善に向けた保健指導を行うなど、健康管理を支援します。

4 調査研究事業

(1) 事業年報等の発行

検診（健診）受診数及び精密検査受診状況を年報にまとめ、市町村や医療機関へ提供します。

(2) 論文・研究・学会発表

がん及び生活習慣病についての論文等を各種学会に発表し、医療の質の向上に役立っています。

(3) 調査研究協力等

① 日本対がん協会に、がん発見率等データを提供し全国統計の作成に協力します。

- ② 関連学会（消化器がん検診学会・人間ドック学会等）にデータを提供し、公衆衛生の向上に寄与します。
- ③ 日本医療研究開発機構による、「乳がん検診における超音波検査の有効性検証に関する研究（J-START）」の、データ収集業務に協力するとともに、当協会の乳がん検診データを提供します。

(4) 技術研修会の主催

医療従事者を対象に、検診部位毎の症例検討会や勉強会を開催し、検診・診断技術の向上を図ります。

5 医療技術職の育成・援助

必要に応じて、医療技術職（診療放射線技師・臨床検査技師・看護師）の養成施設に在学する者に、修学資金を貸与することにより、医療技術者の確保及び資質の向上を図ります。

Ⅱ 事業運営機器の整備

(1) 令和5年度分

		備 考
乗 用 車	普通乗用車	
医 療 機 器	読影用ビューアー ナチュラルビューアー 超音波画像診断装置 内視鏡経鼻スコープ 乳腺頸動脈用プローブ 全自動尿分析装置 胃内視鏡一式	
什 器 備 品	図書館サーバー一式 メールシーラー バスター 紙折り機 ノートパソコン 胃内視鏡洗浄用シンク等 ヘルゼアサーバー	
建物付属施設	LAN工事 資料室改修工事 ネットワーク配線工事	
無形固定資産	シフカンNEXT ランサムウェア対策一式 リモート保守管理対策一式 内視鏡画像診断支援プログラム ヘルゼア改修 胃内視鏡レポートシステム	
合 計	121,645千円	

(2) 令和6年度分

最近の社会事情により、検診車の発注から納車までの期間が2年程要する見込みのため、令和6年度に取得する予定のものを今回提案するものである。

		備 考
検 診 車	胃がん検診車 腹部超音波検診車	
合 計	89,000千円	

※買取りを予定しているが、リース及び割賦での支払いも適宜検討する。

※今般の更新計画は、保有車両の劣化状況及び、製作期間の延長に鑑みた計画である。

※今後、検診の指針改定の見込みや、受診数の推移等を分析し、更新の必要がないと判断した場合は発注を見送る。

※発注に当たっては、当該計画の範囲内で最適になるよう発注先を選定する。